

関係者評価調書

令和4年度

学校法人 北邦学園 認定こども園札幌自由の森幼稚園・保育園

令和4年度に実施した認定こども園札幌自由の森幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

(※自己評価区分 A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

◎ 思いやりのある子 ◎ たくましい子 ◎ 考える子

関係者評価の区分

A：自己評価は適切である

B：自己評価はある程度適切である

C：自己評価はやや適切ではない

D：自己評価は適切ではない

【各年齢・年間のねらい】

- 0歳児 一人ひとり安心して過ごし、保育教諭や友達と一緒にのびのびと遊ぶことを楽しむ
- 1歳児 保育教諭や友達に親しみをもち、自分の思いを表現しながら、のびのびと体を動かして遊ぶことを楽しむ
- 2歳児 (くるみ) 様々な活動を経験する中で、興味関心を広げ、保育教諭や友達に親しみを深め、自分の気持ちを表現しながら遊ぶことを楽しむ
(たんぼぼ) 安心して園生活を送り、いろいろな遊びや友達に興味をもちながら、のびのびと遊ぶことを楽しむ
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもつ中で、自分の気持ちや考えをのびのびと表現しながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
- 4歳児 様々な活動の中で、友達と気持ちや考えを伝え合い、受けとめ合いながら、一緒に遊ぶことや表現することを存分に楽しむ
- 5歳児 様々な活動に見通しや意欲をもって取り組み、共通の目的に向かって友達と協力し、認め合いながら活動することへの充実感を存分に味わう

自己 評価	各 学 年 の ね ら い に 対 す る 評 価 内 容	関係者評価	
		評価	意見等
「A」	・一年を通し、その時期の子どもの育ちを大切にした上で、年間のねらいを意識しながら保育に当たることが出来た。 ・年度末現在の子どもの姿と照らし合わせてみると、どの年齢もねらってきた心の成長が感じられ、目標としてきた成長段階に達することができた。 ・2号園児と預かり保育の混合クラスでは、3～5歳児の異年齢保育を行っているが、その中でも各学年のねらいを心に留め、成長を確かめる指標とすることができた。年齢ごとの時間と異年齢の時間の職員同士が一体となって保育していけるよう今後も努力していく。	「A」	・毎年園で目標を定め、それに向かって努力し、きちんと評価するPDCAサイクルが確立されており大変関心する。 ・子ども達の育ちや気持ちを大切にして日々保育にあたっている。子どもの心の成長も感じられ、先生方にはとても感謝している。 ・行事の活動の時間は特に、何をどう頑張っているか聞かせてくれる話の内容に大きな成長を感じた。 ・友達に関心をもって遊ぶ反面、喧嘩をする姿も増えたが、自分たちで譲り合ったりできるように見守ってくれた。異年齢保育で学ぶことも多いので、午前中も縦割りの活動時間が増えると良い。

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

目 標	具体的な取り組み計画	自己評価	関係者評価	
			評価	意見等
1 子ども主体の保育についての理解を深める ・PEZ 保育の実践を日頃から意識し、環境構成の工夫、丁寧な援助や声掛けについて学ぶ機会を設け、子ども主体の保育についての理解を深める	<u>☆年齢や育ちに適した玩具や環境作りの工夫と見直しの継続</u> *乳児保育室が安心して生活できる場、集中して遊びこめる場となっているかの点検・工夫をし、職員間で共通理解する。 *安全面の重視だけで遊び場を限定するのではなく、一人ひとりの遊びの「選択」を保障できるような臨機応変な職員配置、人数確認や子どもへの声掛けの重要性を共通理解して主体性の発揮につなげる。	【自己評価】「B」 ・育ちに合わせた玩具や環境の工夫については、どのクラスも日頃から意識して工夫してきたものの、マンネリ化している環境に対して直接的な話し合いの場をもっと設けるとよかった。点検・工夫を一時的ではなく定期的に行う習慣を定着していく必要がある。 ・遊びの「選択」を保障する考え方への意識は変化した部分もあり、フリーデーではより期待をもって戸外遊びをのびのび楽しむ子どもたちの姿につながった。しかし、自由遊び時には、個々の主体性を大事にした援助には職員のより手厚い人数確保が必要な場面があった。人数配置の工夫に	「A」	・マンネリ化している環境に対しては、ある意味子ども達が居心地や使い勝手が良く定着したとも考えられる。 ・寒天遊びや絵具遊びなど、家ではできない遊びをたくさん取り入れてくれてありがたかった。 ・自然と共に保育する姿勢は今も昔も変わらず大変共感する。数年前の冬の事故の反省を常に持ち、安全安心な保育や指導につながっていくことを願う。

	☆絵本の環境についての工夫～研究保育を通して～ ＊「えほんのおうち」と「もりのとしょかん」の環境を見直し、子どもたちの主体的な遊びの展開について職員間で積極的に意見を出し合い実践する。 ＊「えほんのおうち」「もりのとしょかん」中心に良質な絵本の厳選や季節のおすすめ絵本紹介をする。	ついて皆で話し合う場を設けるなどしながら、色々な視点からの危険に対する考え方を共有していきたい。 ・研究保育で行った２つの環境についての工夫では、職員間で新しいアイディアを出し合い、皆で考える機会を持つ大切さを改めて感じる事が出来た。２つとも、子どもたちが親しみをもつ良い機会となり、子どもの生き生きとした姿から成果が明らかとなった。しかし、「もりのとしょかん」は冬季閉鎖されてしまうこと、「えほんのおうち」は毎日絵本を手にとれる気軽さに欠けるため、継続的に楽しめるような工夫をしていきたい。		・皆で一緒に、だけではなく、遊ぶ場所を選択させてもらえてよかった。 ・自由遊びの主体性を育てるため引き続き人員配置の努力をお願いしたい。 ・えほんのおうちは利用回数が少ないことが残念だったが、小さいお友達に絵本を読んであげられる良い場所となっている。子どもがワクワクして絵本を手にとる様子が見られる。 ・図鑑が充実し、自然のものを調べるなど、もりのとしょかんが活躍していた。
2 保護者理解の視点に立った情報提供や連携 ・ これまでも保護者の声を聞き必要なことを考え実行してきたが、コロナ禍が続く中でもできることを新たな視点で引き続き考え、寄り添いながら連携につなげる	☆コドモン配信について ・ 環境への配慮と職員の負担軽減のため、完全ペーパーレスで電子化の統一を図る。その上で、紙での配布を希望するご家庭にも配慮する。 ・ 各種お便りやお知らせの配信を、早めのお知らせ、時期をずらしての再配信、閲覧しやすい表示方法などの工夫をする。また、子どもの安全管理の観点から、園生活のルールが保護者の方に習慣化されるよう伝えるツールとして活用していく。	【自己評価】 「A」 ・ スマートフォンでの閲覧、欠席連絡の使いやすさについての保護者からの好評の声が多く、ペーパーレスを徹底してきたことの効果が表れていた。お知らせを紙で配布してほしいという方へも対応できていたため、今後も双方への配慮を続けていく。 ・ コロナ感染状況の情報については、コドモンで素早く伝わり非常に効果的であった。各種お便りの表示については、スマートフォンの小さな画面でも見やすいような文章のサイズ変更、保存場所のグループ分けなど、より見やすい工夫をすることができた。早めの配信に関しては、概ねできており時期をずらしての再配信で保護者が内容を確認しやすいように工夫してきたが、行事に関しては内容を吟味することに時間を要し、詳細のお知らせが遅くなってしまうことがあった。また、細かな連絡事項について適切なタイミングでの再周知に関しては、まだ工夫の余地があるため、今	「A」	・ 電子化とアナログの双方を活用していることは、保護者にとっても安心材料となっているのでは。少数派の意見もしっかりと聴き入れる姿勢が見られ大変良い。 ・ コドモンで連絡をいただく様になってから、いつでもどこでも過去のお知らせを見返すことが出来、紙の管理もなくなり大変助かっている。 ・ グループ分けによりとても見やすく探しやすくなって良かった。 ・ 再配信はとても助かった。 ・ コロナ感染症状況の配信が迅速で良かった。他の感染症が多く出た場合もお知らせしてもらえると助かる。

	・幼児クラスでは、月1回のクラス日より（紙での配布）から、週に1回のブログ更新、乳児クラスではコードモンでの連絡帳配信が定着してきたと同時に、職員の負担軽減につながっている。さらに保護者がアクセスしやすい端末での更新で、より子どもの姿を共有できるよう工夫する。 ☆保護者との信頼関係について ・上記内容が発展し、連絡がスムーズに伝わるようになった反面、対面や電話でなければ誤解を招いてしまうこともあるため、丁寧にコミュニケーションをとることの重要性を改めて意識し、保護者との信頼関係の構築に努める。 ・コロナ禍が続く中でも、できる限り子どもたちの様子を見ていただく機会を設ける。	後も細やかな配慮に基づいて配信していきたい。 ・写真付きのブログ配信や連絡帳に関しては、保育の様子が伝わりやすく好評であった。同時に、職員からも負担軽減の声が多かった。ブログに関しては、年度途中でホームページからコードモンでの配信に変更したことでより保護者が目にしやすくなった。クラスによって写真の枚数等に偏りがあるため、今後はある程度統一しどのクラスも同等の情報を提供できるようにしていく。 ・便利なツールが増えた一方で、電話や対面で直に子どもの成長を伝え合うことが信頼関係や子ども理解を深める大切な機会であるという意識が職員間で大切にされてきている。しかし、内容によっては文章と対面どちらで伝えるべきか迷う職員もいたため、迷った時にはすぐに相談できる体制を強化し、一人ひとりがその見極めができるよう園全体で支援していく。 ・コロナ禍の影響で異例の欠席数となった行事もあったが、追加日を設けるなどして、なるべく保護者が子どもの様子を目にする機会を失わないように努力できた。日頃の保育に関しても見学可能とお知らせしていたが、思ったより希望者が少なかったため、今後も積極的に周知していく。		・ブログの配信は見やすくなりとても満足。HPでの園の様子も素晴らしいので、見てもらえる工夫があると良い。 ・ブログではどんなことに取り組んでいるかわかり嬉しかったが、写真がより見やすいページの使い方だと嬉しい。 ・連絡帳は寝る前に分かるところまで記入しておけて便利。園からのお返事にも写真がついていて嬉しい。 ・ブログや先生方からその日の子供の様子を伺い安心することが出来ている。 ・行事の“年長のみでも別日を”という対応は素晴らしかったと思います。 ・いちいの村の良さがまた伝わっていない保護者も多いのでは。
3 安全管理・危機管理の視点での環境整備の継続 ・コロナ禍での行事運営、命を守る基本的な安全管理、環境整	☆新型コロナウイルス感染症予防 ・日々の感染予防対策を継続し、国の方針の変化に伴い陽性者発生時のマニュアルを随時更新すると同時に、保護者への通知がより正確に素早く伝わるよう準備を整えてお	【自己評価】「B」 ・コロナ禍での予防策等に関しては、国の考え方が変わる中でも柔軟に対応することが出来、加湿・換気を含めた安全な環境作りを心掛けることができた。また、今年度は対応が緩和されていく状況であったため、様々な行事や異年齢の活動などを増やし、子どもたちがのびのびと過ごすことが出来ていた。	「A」	・コロナへの対応を行いながらも子どもたちの活動を保障していることが大変すばらしい。 ・コロナ禍で様々な我慢が強いられる中、出来得ることを最大限に行うことは大変難しいかと思いますが、今後もぜひ断続して行ってほしい。

備や子どもへの働きかけを継続していく ・安全管理と主体的に遊べる環境作りのための園舎内外の環境整備	く。 ☆防災用品の備え ・防災頭巾と大型そりの購入 ・各クラスの非常持ち出し袋を毎月の避難訓練時の活用を定着していく。 ☆園バス運行の安全管理 ・他県で起きたバスでの置き去り事故を受け、出欠確認や人数確認の基本的な安全対策を改めて徹底できるよう様々な視点で見直す。 ・学園内でバス運行マニュアルの内容を精査し、ミスの起きない仕組みづくりを見直す。同時に、当たり前のことを確実にやっていくことの重要性について職員間で共通理解する。 ☆園舎内外の環境整備 ・日々のヒヤリハットの報告を習慣化することで、日頃からの安全管理の意識を高める。 ・子どもたち自身で考えて行動できるよう、保育教諭からの声掛けを丁寧に行う。 ・わんぱく神社の鳥居リニューアル ・年長児保育室床張り替え ・つり橋補修 ・野外ステージ、大型ブランコ補修 ・森の中や駐車場の木の伐採	・防災頭巾は予算の関係上まだ数が十分ではないため、今後も追加購入をしていく必要がある。同時に、いざという時にすぐに使えるよう、定期的なチェックや日頃から子どもたちが使い方を身に付けられるような配慮を検討していく。また、大型そりは、購入後避難訓練時に使用し、いつでも使いやすい場所に保管するなど工夫することが出来た。 ・バス運行マニュアルについては、添乗者だけでなく運転手についても記載の見直しをした。また、他県の事故を受け職員もこれまで以上に十分な確認への意識が高まっていた。今後も日々業務として慣れてしまうことのないよう、全職員が気を引き締められるよう定期的にマニュアルを見直し、添乗者と運転手の連携をしっかりと意識しながら安全を確保していく。 ・自由の森は近年朽ちた枝が目立っているため、今年のような環境整備や、日々の点検を続けていく。 ・今年度、園敷地内において、冬道の自動車同士の事故が発生した。安全に走行してもらえるようなアナウンス、人員配置、除雪の徹底などの環境整備を続けていく。	・園でコロナが出た際におもちゃなど全て消毒している様子に、とても色々考えながらやってくれていたと感じた。感染症のお知らせは乳児幼児クラスのどちらかだけでも情報があると良い。 ・避難訓練は日頃から行っていて助かる。パジャマの廃止ももしもに備えてという意識が素晴らしいと思った。 ・避難訓練がある度に災害の大変さを確認できているようであった。その日程に合わせて保護者へも緊急時のお迎えの方法など再確認のお知らせがあるとより親子で共有できるのでは。 ・夏の水遊び時は、幼児はシャツやパンツではなく濡れても良い服で遊ばせた方が良いのかなと思う。 ・園のバスの改造予定や、子どもたちにも危機を知らせる指導（クラクション）をしていたことに安心した。今後も安全第一で保育活動を行ってほしい。 ・予想もしない出来事に対して、今後も予防できるよう、職員の方、子ども達の安全が確保される仕組みづくりを応援している。それが楽しい園生活につながると思う。 ・敷地内の路面状況のメールは、安全運転の再確認となりとても良かった。
---	---	---	--

4 職員間での連携 と研修への積極 的な参加 対話の場を大切にすることで、情報や保育観の共有、個々の負担感を減らした めの協力体制や仕事分担の工夫について職員間で連携 をとる	☆対話の場を効果的に設定する - クラス・学年・リーダー間・管理職間などでこまめに対話の場を設け、多様性を大事にしながらも、その都度課題や情報を共有し、より良い協力体制を作っていく。 - 職種に限らず、全員が子どもと関わる責任をもち、より良い保育を目指して互いに意見を伝え合う場を設ける。 - 対話の場や会議の中では、一人ひとり自分で考える発信する機会をもつ。 - 管理職やリーダーの役割分担が複雑にならないよう、組織図を明確にして共有する。 ☆業務削減や時間の使い方の意識 - 職種によって仕事内容を制限しないことで、正職員の勤務時間の使い方を工夫し、心身の健康を維持できるようにする。 - 情報共有の方法としてPCの環境を新たに整え、ペーパーレス化や業務削減につなげる。 - 会議は参加メンバーを厳選し、その後の報告を確実に行き全職員に伝達できるようにする。 ☆積極的な研修の参加による、主体的な保育についての理解 - 様々な年齢の保育の研修を取り入れ、子どもの育ちの連続性を学べるような配慮、保護者対応、マネジ	【自己評価】 「B」 - それぞれの職員間で、情報交換や意見交換の場を意識して多く設けてきた。しかし、まだ学年での回数の差や、個人での必要感に差がある。また、会議が単なる情報共有の場で終わるのではなく、課題解決のための対話や新たな問いを生み出す対話となるよう、今後は内容を吟味する必要がある。 - 職種に関係なく発言できる場は、昨年度と比べて多く作ることが出来た。その分、時間が足りないと感じるが多かった。今後はさらにその時間を捻出する工夫が必要である。 - 組織図を共有できたことで、相談や報告時に迷いが少なくなったが、まだ組織図の具体的な整理や協力体制の強化のためにできることがあるため、今後一つひとつ課題を共有し解決していく。 - PC上で多くの情報を共有できるシステムは、職員からも業務削減に効果的だという声が多かった。 - 会議ごとに必要なメンバーで話し合うことを意識することは昨年度よりできていた。ただ、意見を伝え合う場とまとめる場を分けるなど、進め方に工夫の余地がある。 - 処遇改善加算の要件に伴い、様々な研修の案内が目に見えようになった。積極的な参加もできていたが、日程調整が難しいこともあったため、無理	「A」 - 沢山の職員の方々が園での生活・行事に積極的に関わってくださり、子どもは先生だけでなく職員の方それぞれに感謝の気持ちを持つことが出来ている。 - 常に情報共有しながら保育している事は大変良いと思う。職員間でも風通しの良い環境が整っているように思える。 - 職員の方の意見交換の場を持ち、円滑なコミュニケーションの結果、今後もより良い働き方職場になるといいなと思います。それが子ども達のより良い生活にもつながる。 - どの職員さんも、忙しい中でも笑顔で挨拶、お話をしてくれます。保育の時間以外のお仕事もとても大変だと思うので、課題を明確にして負担が減るように頑張ってほしいです。 - 情報の共有や組織としてのまとまりはとても大変なことだと思う。これからは効果的な業務削減方法を模索し、先生たちにとっても働きやすい場所になってほしい。 - 研修については、様々な制度の変更や子どもたちへの接し方など勉強し尽くすことはないなので、積極的に参加し更なる高みを目指してほしい。
--	---	--	---

	メントなど様々な分野の内容を受けられるような環境作りをする。 ・学園での管理職研修では、自園の課題の明確化や保育の言語化の実践を行い、職員に伝え共有できるようにする。	なく、学ぶ姿勢を引き続きもてるよう整備していく必要がある。 ・管理職研修含め、学園の様々な研修が内容をアップデートし、実りあるものとして機能し始めた。今後は、その学びを参加者以外にもより広めていくよう工夫が必要である。		
--	--	--	--	--

3 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法	関係者評価	
		評価	意 見 等
① 「主体的な遊び」の充実のための、保育環境整備や構成の創意工夫	・今年度取り組んできた環境の活かし方についての話し合いをその他様々なゾーンにおいて継続し、子どもたちの「遊び」が充実する環境構成の工夫を続けていく。また、日常的にマンネリ化している環境について、客観的に見て職員間で意見を出し合う機会を設け、改めて、各年齢の成長段階や子ども一人ひとりの成長に繋がる環境構成、そのための整備工夫を考える。 ・人員配置も含め、のびのび遊べる環境整備、子どもたちが遊びを選択し主体的に遊びを広げられる環境構成について考え、子どもたち一人ひとりの思いを尊重できるような保育について職員皆で考え、工夫する。 ・環境構成の創意工夫のために、子ども理解を深められるような対話の場を十分に設ける。	「A」	・自然から学ぶという保育精神・方針を開園当初からもち、それを続け、進化させている点は素晴らしいことだと思う。 ・素晴らしい自然環境の中、子ども達は主体性が育ってきている。 ・自由遊びの時間の異年齢のお友達との遊びや場所を自分たちで選択でき充実した時間を過ごせている。 ・委員会でもあった、外国語、目の見えない方、足が無い方、色々な人がいるということを学べたり肌で感じたりできる機会があれば嬉しい。
② 保護者理解と連携の推進	・これまでも努力をして毎年改善している項目もあるが、まだ不完全な面もあるため、常に保護者理解の視点に立つことを忘れず、より意識して保護者連携の充実に繋がるよう努める。 ・感染予防についての考え方も変化していくため、対策をしっかりと行いながらも、保護者が積極的に園に足を運んでいただけるような機会を多く設ける。	「A」	・いつもお迎えに行くと積極的に様子を教えてくれた。 ・先生方がいつも丁寧に園の様子を教えてくれる。 ・バス通園の場合、職員との交流がどうしても少なくなるため、園の見学を勧めたりバス添乗の先生の名札を見やすくしたりするなど工夫が必要。 ・保護者は三者三様、皆同じ方向を向かせることは容易ではないので、一人ひとりしっかり向き合って話を聴くことしかできないと思う。

③ 職員の業務改善の推進	・一つの組織として報連相がしっかりとできる仕組みを作り、一人ひとりが主体的に意見を出し合い、行動することで、助け合い、職員間での信頼関係を強化していく。その結果、一人ひとりの負担感が減り、円滑に仕事が進むようになるという目的を皆で共有する。 ・ここ数年様々な業務改善に取り組み、少しずつ成果が出て来てはいるが、まだ改善できる点や課題点があるため、全ての職員の働きやすさが増すよう、引き続き取り組みを進める。また、その内容については、職員皆でアイデアを出し合い、自主的行動へと繋げられるようにする。	「A」	・職員間の報連相と言っても時間帯などで難しい中、目標を掲げ取り組もうとする姿勢を評価する。 ・業務内容が多いと思うので、少しでも負担が減り職員の方が定着してもらえればと思う。 ・素敵な先生方が魅力の一つです。仲良い雰囲気です。安心できるが、注意し合える関係、信頼できる関係で良い園を続けてほしい。 ・職員の方の信頼関係が今後も強化されることを応援している。
---------------------	---	------------	---